



慈悲の心に基づく創立の理念を引き継ぎ  
地域の慢性期医療を支える砦に。

社会福祉法人真宗協会

## 帯広光南病院

### 苦しむ人々を救いたいという 慈悲や福祉の精神が出発点

帯広光南病院の歩みは、昭和23年(1948)に創設された社団法人真宗社会事業協会の病院事業に始まる。当時、国民病とも呼ばれていた結核に苦しむ人々の救済を目的に、2床の結核病院としてスタートした。その後、帯広真宗病院と名付けられ、時代のニーズに応じて診療科やベッド数を変更しながら規模を拡大。昭和43年(1968)に帯広光南病院に改称し、主に高齢者を対象とした慢性期医療に取り組んできた。

70年を超える歴史において貫かれてきたのが、病を抱える人や高齢者、障害者といった社会的弱者に手を差し伸べるという設立理念だ。「今は、在宅での医療や介護が推進されていますが、家庭環境や経済的事情などにより、在宅でケアをすることが困難な場合

があるのが現実です。そうした長期療養が必要な方を受け入れ、適切な医療と看護を提供している当院は、患者さんやご家族はもちらん、地域社会の支えになっている」と川上勝久病院長は語る。

各部門が連携して患者や家族のためにできることを模索し、ときには精神的なサポートも行いながら寄り添い続ける。人としての尊厳や思いやりを大切にする医療が、地域からの高い評価につながっている。

### 誇りを持って働く環境が質の高いケアを生み出す

同院では、魅力ある職場環境づくりも重視している。例えば、介護に携わる職員は看護助手ではなく介護員と呼ばれる。これには、介護の専門職としての誇りを持って働いてもらいたいという思いが込められている。ここ数年取り組んできた経営改善や意識改革につ

いて、川上病院長は確かな手応えを感じているという。「職員のモチベーションは非常に高まってきた。私たちが幸せでなければ、患者さんに尽くすことはできません。職員が喜びを感じながら働く環境であれば、自ずとサービスの質も上っていくはずです」。

平成24年(2012)からは理学療法士を中心リハビリテーションにも力を入れてきた。機能訓練室やベッドサイドでのリハビリの他、毎週水曜日は集団でのレクリエーション活動を提供している。スタッフのスキルアップの意識も高く、学会への参加や研究発表にも熱心だ。また、院内では定期的に十勝管内のリハビリ職種による勉強会が開催され、病院の垣根を超えた交流が図られている。

### 職員の総意で医療療養病床を選択 誠実な医療の提供を使命に

同院は今年9月、50床あった介護療養病

床をすべて医療療養病床に転換。介護医療院という選択肢もあったが、医療に特化することを選んだ。そこには、医療で患者や家族を支えたいという職員の思いがあった。

「病院全体で議論を重ねましたが、全職員が質の高い慢性期医療を誠実に提供していくという意見でした」と川上病院長は明かす。今後は100床の医療療養病床を維持するため、医療の質の向上や経営努力がより求められる。しかし、それでも地域のニーズに応えなければならないという職員の熱意が、同院の原動力になっている。

### 地域貢献を果たしながら 慢性期病院のトップを目指す

医療の激変期を迎え、同院でも在宅サービスや地域との交流を重視するようになった。平成25年(2013)から訪問リハビリテーションを、今年から訪問診療と訪問看護を開始。地

域住民に向けた介護予防教室や地域イベントでの医療相談など、社会貢献活動もより精力的に展開している。

今後は、より積極的な治療の提供や自宅復帰を視野に入れた支援も行う予定だ。ポータブルX線装置を用いた誤嚥性肺炎対策など、患者のQOL向上にも努めている。「これからは慢性期医療も質で選ばれる時代。十勝圏をリードする慢性期病院を目標に、ラグビーの“One for all, All for one”的精神で理想の医療を追求していきたい」と川上病院長は展望を語る。

十勝医療圏全体の療養病床数は平成30年(2018)11月時点で約1000床。そのうち1割を占める同院の存在は大きい。地域医療構想の中で長期療養を必要とする患者の受け皿となり、命を守っていくことも重要な使命だ。慢性期医療の拠点となるべく、地域のトップを目指す取り組みが続く。



病院長  
川上 勝久(かわかみ・かつひさ)

昭和42年(1967)昭和大学医学部大学院卒業。  
帯広厚生病院整形外科を経て、昭和43年(1968)  
に川上整形外科医院開院。平成12年(2000)7月  
に帯広光南病院副病院長に就任し、平成31年  
(2019)4月より現職。趣味はラグビー。



社会福祉法人真宗協会  
帯広光南病院

〒080-0836 帯広市空港南町303-7

TEL: 0155-47-4811

FAX: 0155-47-4812

<http://shinsyukyoukai.jp/kounan/>

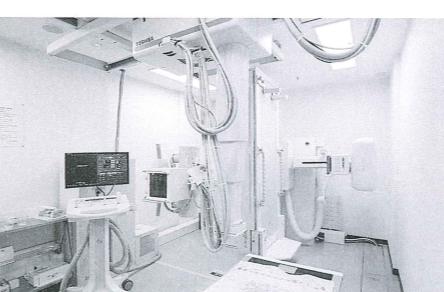
■診療科目／内科・リハビリテーション科

■病床数／100床(医療療養病床)

■職員構成／医師4名、看護師11名、准看護師21名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床検査技師1名、管理栄養士1名、介護職員33名、理学療法士4名、作業療法士1名、医療ソーシャルワーカー2名、事務職員6名

#### 沿革

- 昭和23年(1948)8月 社団法人真宗社会事業協会が病院事業を開始
- 昭和24年(1949)2月 帯広真宗病院として独立開院
- 昭和33年(1958)8月 帯広市西5条南30丁目に移転、30床
- 昭和43年(1968)11月 帯広真宗病院を廃止し、帯広光南病院開設
- 平成11年(1999)11月 現在地に移転、100床(介護療養病床79・医療療養病床21)
- 平成15年(2003) 介護療養病床87・医療療養病床13
- 平成22年(2010) 介護療養病床82・医療療養病床18
- 平成23年(2011) 介護療養病床78・医療療養病床22
- 平成24年(2012) 介護療養病床70・医療療養病床30
- 平成25年(2013)4月 訪問リハビリテーション事業所設置
- 平成27年(2015) 介護療養病床50・医療療養病床50
- 令和元年(2019)9月 医療療養病床100



●2018年2月に更新したレントゲン装置



●食堂を兼ねた明るいデイルーム



●5名のセラピストが病状に合わせたりハビリテーションを提供している